



校長 松本 靖史

【本校も七夕まつり】

本校が所在する平塚市は、「湘南ひらつか七夕まつり」が有名で、今年は7月3日（金）から5日（日）にかけて開催されました。本校でも、それに合わせ、生徒会が平塚市から頂いた笹をラウンジに飾り、短冊を用意したところで、すぐに様々な願いが書かれた短冊でいっぱいになりました。以前と比べて、短冊の内容が個人的な欲望ばかりなのが少し残念です。



【手話であいさつ Days】

令和8年7月6日（月）から8日（水）にかけて、本校では福祉委員会が「手話であいさつ Days」に取り組みました。初日の朝には、福祉委員の生徒が職員室に出向き、「おはよう」「こんにちは」「ありがとう」といったあいさつをレクチャーしてくれました。



【令和8年度課題研究発表大会】

令和8年7月15日（火）の午前中に、ひらしん平塚文化芸術ホールをお借りして、6年次生の課題研究の発表大会を行いました。この発表大会は、「生徒が課題研究の成果と過程を発表し、研究内容を論理的に整理して他者に伝える力を養うこと」を目的としています。この発表大会には4・5年次の生徒も質疑応答の部分で参加しています。また、東海大学体育学部の大越教授、早稲田大学教育・総合科学学術院の藤井教授を講評者としてお招きし、最後に講評をいただいています。

今回の発表は4組で、発表順に「教授言語変更後におけるルワンダの特性を活かした持続可能な教育支援の在り方とは」、「つながれば、

あなたも世界を変えられる～いきぬきのみちすじを経て～」、「他者と政治～なぜリベラルは不人気なのか～」、「校内ナビから見たデジタル時代の壁」の発表がなされました。



発表後、藤井教授、大越教授からはそれぞれ次のような講評をいただきました。

とてもすばらしかった。さらに探究が進化した。特に次の点が優れていた。課題の背景の分析が優れている点、自分の生き方・在り方につながっている点、探究のテーマが多様化している点、探究が身近なことから社会課題へ広がりを見せており、さらに具体策の提案がなされた点である。

とても興味深い発表であった。ライブ感あふれる発表であった。本質に迫る数々の質問も素晴らしかった。発表内容はそれぞれであったが統一感があった。社会で起きている現象に切り込んでいるところが素晴らしかった。

【夏休み前の全校集会】

令和8年7月17日（金）は、夏休み前最後の登校日です。1校時は、オンラインで全校集会、生徒会行事を行いました。全校集会では校長から話をするとともにライフグループによる夏休みの諸注意を行いました。校長からは、よりよい授業にしていくために生徒に望むこと、いわゆる「闇バイト」の危険性について、学校の安全対策の3点についてお話をしました。

生徒会行事では、陸上部、テニス部、囲碁部生徒の各種大会表彰、環境委員会の使い捨てコンタクトレンズの空ケースの回収に係る感謝状の披露を行うとともに、文部科学大臣杯小・中学校囲碁団体戦に出場する囲碁部の壮行会を行いました。